

題材名	1. 音楽で心をつなげよう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	(1) 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。	
	(2) リズム、旋律、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。	
	(3) 曲の感じを生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。	
題材の意図		
小学校生活を2年間過ごし、3年生となった子供たちは、中学年として新たな学校生活のスタートを切ります。この学年はクラス替えが多くみられ、新しい友達との出会いがあることでしょう。		
学年最初の本題材は、これから始まる3年生の音楽の授業に、子供たちが進んで取り組むことができるようにするため、友達と声を合わせて歌ったり拍にのってリズムを打ったりする学習を展開します。		
歌唱教材「ハッピーソング」では、明るく楽しい曲調にのって、学級全員で声を合わせて歌う楽しさを味わいます。「リズムでなかよくなろう」では、2年生までに積み重ねたリズムの学習を楽しみながら復習し、さらにその力を土台にして、指導者や友達が打つリズムを模倣する活動を通して拍節感やリズム感を育てます。この学習を常時活動として扱い、少しずつ積み重ねることにより、合わせて歌ったり演奏したりする技能を高めたり、リズムを中心とした音楽づくりに生かせる発想を得たりすることにもつながります。		
そして、春の様子を歌った「春の小川」「茶つき」では、歌詞を読んで様子を思い浮かべたり、手遊びを通して曲の面白さを感じ取ったりしながら、友達と気持ちを込めて歌う活動を進めていきます。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) (2)器楽ア、イ(ア)、ウ(ウ)		
〔共通事項〕※		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、リズム、旋律、拍、フレーズ		
・音符、休符、記号や用語		
ブレス		

※・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素のうち、アは音楽を特徴付けている要素、イは音楽の仕組み

- ・音符、休符、記号や用語

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌）	思① 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 曲の感じを生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（歌）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② リズム、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	

※「リズムでなかよくなろう」は声を合わせて歌う学習につなげるリズムの活動のため、本題材では器楽の評価規準を設定していません。

題材名	2. 歌って音の高さをかんじとろう	扱い時数の目安 4時間
題材の目標	(1) 曲想と旋律などの音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱や範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして表現する技能や、互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。 (2) 旋律、音階などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 (3) 音の高さを感じて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、読譜に親しむ。	
題材の意図		
学習指導要領において、低学年ではリズム譜を見て演奏することが求められ、それ以外の楽譜を見て演奏することについては求められていないため、範唱をまねて歌う模唱や、旋律を階名でまねて模唱したり暗唱したりする階名模唱や階名暗唱を中心に学習を重ねてきました。 3年生からは、低学年で身に付けてきた音程感覚をさらに高めるとともに、ハ長調の楽譜を見て歌詞や階名で歌ったり楽器を演奏したりする視唱や視奏の活動を段階的に進めていくことになります。 この題材では、ハ長調でつくられた教材を取り上げています。明るい歌声で歌う学習を通して、楽譜を見て歌ったり演奏したりする活動に慣れ親しむことができるように進めていきましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ) 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素※ ア 音色、旋律、音階 イ 音楽の縦と横との関係 ・音符、休符、記号や用語 ト音記号、五線と加線、縦線、終止線、小節		

※本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素のうち、核となるものについては、**太字**で示しています。

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①技 思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱や範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして表現する技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。（歌・器） ②知 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌） ③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。（器） ④技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。（歌・器）	思① 音色、旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。（歌・器）	態① 音の高さを感じて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器）

題材名	3. リコーダーのひびきに親しもう	扱い時数の目安 8時間
題材の目標	(1) リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する基本的な技能を身に付ける。 (2) 音色、リズム、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 (3) リコーダーの音色や演奏の仕方に親しむ学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組み、リコーダーに親しむ。	
題材の意図		
前の題材から始まったハ長調の学習とともに、3年生において重要な学習の一つであるリコーダーの学習が始まります。 この題材ではその導入として、ヘッド ピースを使った音遊びを通して音色に親しみます。そして、楽器の支え方や運指、音の出し方や息づかいなどの基本的な演奏の仕方について、左手の運指のみで演奏できるシ、ラ、ソ、下、㇏の五つの音を使った教材を用いながら、段階的に学習を進めていきます。 指導に当たっては、子供たちが知っているリコーダー曲「ピタゴラスイッチ」の鑑賞の学習をきっかけに、リコーダーやその音色への興味を引き出します。そして、いろいろなリズムをシの音で演奏したり、身近なものの音まね遊びをしたりしながら、基礎的な演奏の仕方を楽しく学んでいきます。また、演奏家やキャラクターによるワンポイントアドバイスを掲載し、子供たちが主体的に学習を進められるようにしています。		
学習指導要領との関連		
A表現 (2)器楽ア、イ (イ)、ウ (ア) (イ) (3)音楽づくりア (ア)、イ (ア)、ウ (ア) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、旋律 ・音符、休符、記号や用語 付点2分音符、付点4分音符		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑） ②知 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。（器） ③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思① 音色、リズム、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	態① リコーダーの音色や演奏の仕方に親しむ学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組みもうとしている。（器・鑑）

＊「ヘッドピースで音あそび」「いろいろな音であそぼう」はリコーダーの音色に親しんだり運指を身に付けたりする学習につなげる音遊びの活動です。そのため、本題材では音楽づくりの評価規準を設定していません。

題材名	4. 拍にのってリズムをかんじとろう	扱い時数の目安
		9時間
題材の目標	(1) 曲想と拍などの音楽の構造との関わり、リズムやフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能や、拍にのって互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて、音を合わせて演奏する技能、反復や変化を用いて、まとまりのあるリズムをつくる技能を身に付ける。	
	(2) リズム、旋律、拍、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識したリズムをつくるかについて思いや意図をもったりする。	
	(3) 拍子やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくりの学習活動に取り組む。	
題材の意図		
この題材では、低学年で身に付けてきた拍やリズムに対する感覚、またそれらを表現するための能力をより伸ばしていくことに重点を置いて学習を進めていきます。 拍を感じ取りながら、音や気持ちを合わせて演奏する活動は、高学年に向けて、息の合った美しい合唱や合奏に取り組むうえで大切な基礎となるものです。 リズムの特徴が異なるパートを合わせて表現することや、拍子の違いが曲想と関わりがあることに気付くこと、「三三七拍子」のリズムを基に、反復や変化を生かして音楽をつくる学習を通して、まとまりのあるリズムや旋律が生み出す面白さを感じ取りながら、思いや意図をもって表現していきます。 各教材の学習において、友達と拍を共有しながら表現することを大切にし、必要に応じて、「1.音楽で心をつなげよう」の常時活動「リズムでなかよくなろう」を活用し、子供たちの主体性を引き出ししながら学習を進めていきましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱イ、ウ(ア) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ) (3)音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 - ア 音色、リズム、旋律、拍、フレーズ - イ 反復、変化 ・音符、休符、記号や用語 4分の2拍子、4分の3拍子、4分の4拍子、タイ		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と拍などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（器）	思① リズム、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	態① 曲想と拍やリズム、旋律などとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（器）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思② 音色、旋律、拍、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	態② リズムのつなげ方、反復や変化によるよさや面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。（づ）
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思③ リズム、拍、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（づ）	
④知 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。（づ）		
⑤技 思いや意図に合った表現をするために必要な、反復や変化などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）		

題材名	5. せんりつのとくちょうをかんじとろう	扱い時数の目安
		7時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。	
	(2) 旋律、強弱、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、旋律の特徴を生かした表現に親しむ。	
題材の意図		
この題材では、低学年から育ててきた音楽に対する感性を高めながら、音楽を特徴付けている要素の一つである旋律に着目し、その特徴を感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想を捉えたりしながら学習を進めていきます。 学習を進めるに当たっては、音楽に合わせた体の動きや楽譜上の音符を手掛かりにして、旋律の特徴や、音の上がり下がりが生み出す曲の山を感じ取ったり、歌詞の表す様子と感じ取った旋律の特徴との関わりを考えたりしながら、それを生かした歌い方を工夫していきます。 その際、歌詞の内容やフレーズを基に、呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う技能や、互いの歌声や音を聴き合いながら演奏する技能も育てていきましょう。 鑑賞の学習では、旋律の音の上がり下がりやリズムの違いが生み出す特徴を聴き取り、それを踏まえて曲全体を味わって聴くことができるようにします。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) (2)器楽ア、イ(ア)、ウ(イ)(ウ) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、旋律、強弱、フレーズ イ 反復		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）	思① リズム、旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・鑑）
②知 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌）	思② 音色、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）		

題材名	6. せんりつの重なりをかんじとろう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、音色や旋律、音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わり、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。	
	(2) 音色、旋律、音の重なり、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる旋律の重なりに親しむ。	
題材の意図		
この題材では、歌声や楽器の音が重なり合うことで生まれる響きを感じ取り、それを基に、互いの歌声を聴き合いながら歌ったり、旋律や楽器の音が重なり合う面白さを味わいながら鑑賞したり合奏したりします。 短い音型が繰り返されるオスティナートが加わった曲の教材性を生かして、旋律の重なりに注目しながら表現と鑑賞の学習を進めます。歌唱教材では、“ランランラン”の音型を繰り返すことで簡単な二部合唱の体験をすることができるため、互いのパートの声を聴きながら声を合わせて歌う技能を育てていくようにしましょう。 器楽教材では、鑑賞教材と歌唱教材で学習したことを踏まえて、斉奏と二部合奏それぞれの旋律の重なりが生み出す響きの面白さを感じ取りながら、二部合奏の楽しさに気付くことができるようにします。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱 ア 、 イ 、 ウ (ウ) (2)器楽 ア 、 イ (イ)、 ウ (ア)(イ)(ウ)		
B鑑賞 ア 、 イ		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、 旋律 、強弱、 音の重なり		
イ 反復		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）	思① 音色、旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・鑑）
②知 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌）	思② 旋律、強弱、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思③ 音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	
④知 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。（器）		
⑤技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		

題材名	7. いろいろな音のひびきに親しもう	扱い時数の目安
		9時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わり、楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現や、発想を生かした表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能や、音楽づくりの技能を身に付ける。	
	(2) 音色、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 楽器の音色や重なり合う音の響きに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られるいろいろな音の響きに親しむ。	
題材の意図		
この題材では、音色を中心に、旋律や音の重なり、音楽の仕組みなどと曲想との関わりを取り上げながら、表現と鑑賞の学習を進めます。		
鑑賞の学習においては、旋律が反復される曲の特徴を捉えるとともに、金管楽器の音色に着目して、それぞれの楽器の固有の音色の美しさも味わって音楽を聴くことができるようにします。		
また、器楽の学習においては、リコーダーや鉄琴、低音楽器など異なる音色の楽器が重なり合う響きを味わうとともに、互いの音を聴き合いながら演奏することができるようにします。学校や子供の実態に応じて、リコーダーの低いレとドの運指は確認するだけにとどめて、リコーダー２のパートは省略すること考えてもよいでしょう。		
音楽づくりの学習に当たっては、身近な打楽器の音色の違いを感じ取ったり、音の重ね方による響きの違いに気付いたりしながら、表現の仕方を工夫してきた学習経験を踏まえ、ここでは自分なりのイメージやアイディアを基に打楽器の音の響きやその組合せを試したり、それらの重ね方やつなげ方を工夫したりして、音楽の仕組みを生かした音楽づくりの学習を展開します。音や言葉によるコミュニケーションを用いて、自分の発想を友達と共有したり、友達の発想から自分の音楽を見直したりして、音楽づくりの発想を広げていくようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (2)器楽ア、イ(7)(イ)、ウ(7)(イ)(ウ)		
(3)音楽づくりア(7)(イ)、イ(7)(イ)、ウ(7)(イ)		
B鑑賞 ア、イ		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、旋律、強弱、音の重なり		
イ 反復、呼びかけとこたえ		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）	思① 音色、旋律、反復を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 金管楽器の音色や旋律の特徴と曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）
②知 曲想と音色などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（器）	思② 音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	態② 楽器の音が重なり合う響きに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（器）
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思③ 音色、強弱、音の重なり、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たり、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりしている。（づ）	態③ 打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。（づ）
④知 いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつながり方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。（づ）		
⑤技 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能や、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）		

題材名	8. ちいきにつたわる音楽でつながろう	扱い時数の目安
		5時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、速度などの音楽の構造との関わりや、音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音の上がり下がりを感知取って、旋律をつくる技能を身に付ける。 (2) 音色、リズム、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感知取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら祭り囃子を味わって聴いたりする。 (3) 祭り囃子に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組み、郷土に伝わる音楽に親しむ。	
題材の意図	この題材では、音色やリズムなどに注目して祭り囃子を鑑賞し、郷土に伝わる音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取ることができるように学習を進めていきます。一部の楽器のパートを唱歌（口唱歌）で歌う体験を通して感じたことや気付いたことを発表し合うことで、より親しみをもって祭り囃子を聴くことができるように教科書は構成されています。3年生の子供たちが、郷土に伝わる音楽のよさや特徴に気付き、親しみをもてるようにしましょう。 また、音楽づくりの学習では、ハ長調の音階の旋律とは異なる雰囲気を感じ取りながら、ラ、下、レの三つの音を使った旋律づくりを行います。教科書では、リコーダーの習熟を兼ねて、リコーダーを用いて旋律をつくる学習を示していますが、地域や学校の実態に応じて、篠笛や箏などの和楽器を用いて展開することも考えられます。子供たちの興味を引き出しながら学習を進められるように、地域との連携も考えていくようにしましょう。 この旋律づくりの学習は、4年生では日本の音階の音、5、6年生では和音の音を使った旋律づくりの学習へとつながっていきます。	
学習指導要領との関連	A表現 (2)器楽ア、イ(イ)、ウ(イ) (3)音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、速度、旋律、拍 イ 変化	

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、速度などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）	思① 音色、リズム、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、祭り囃子や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 音色、リズム、速度に着目して祭り囃子の音楽を聴く学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）
②知 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。（づ）	思② 速度、旋律、拍、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（づ）	態② ラ、下、レの三つの音を使った旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。（づ）
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて旋律をつくっている。（づ）		

＊「しめだいこを打ってみよう」は発展的な学習活動のため、本題材では器楽の評価規準を設定していません。

題材名	9. 思いを音楽で表そう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	(1) 曲想と音色や旋律、フレーズなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能や、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。 (2) 音色、旋律、音の重なり、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 (3) 自分の思いを音楽で表現することへの興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、友達と協力して表現の工夫をする態度を育む。	
題材の意図		
3年生最後の本題材では、これまでの学習のまとめとして、音楽的な見方・考え方を働かせて、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを考え、思いをもって表現を工夫します。 歌唱教材では、歌詞の表す様子や、旋律の反復や伴奏の変化が生み出す曲想の変化を感じ取って、それを歌い方の工夫に結び付けていきます。 器楽教材は、「パフ」と同様の教材性をもっています。ここでは、音の重なりを楽しむことに加えて、旋律の特徴やフレーズを生かした演奏をするためにはどうしたらよいかを友達と考えながら、豊かな表現を目指しましょう。 4年生へのステップアップとして、感じたことや気付いたことなどを互いに伝え合い、音楽の楽しさや演奏のよさに気付く能力も伸ばしていくようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(イ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ) 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、旋律、音の重なり、フレーズ ・音符、休符、記号や用語 全音符		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と音色や旋律、フレーズなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌） ②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌） ③知・技 曲想と音色や旋律、フレーズなどの音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。（器） ④技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思① 音色、旋律、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌） 思② 音色、旋律、音の重なり、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	態① 自分の思いを音楽で表現することへの興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器）